

平成 27 年 9 月 7 日

各 位

東京都港区虎ノ門四丁目 1 番 28 号
虎ノ門タワーズオフィス
フィンテック グローバル株式会社
代表取締役社長 玉井 信光
(コード番号：8789 東証マザーズ)
問合せ先：取締役 経営管理部/事業統括部管掌
上席執行役員 鷺本 晴吾
電話番号：(03) 5733-2121

連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、連結業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成27年9月期連結業績予想数値の修正（平成26年10月1日～平成27年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	7,000	1,250	1,200	1,100	7.24
今回修正予想 (B)	5,400	200	360	300	1.97
増減額 (B-A)	△1,600	△1,050	△840	△800	—
増減率 (%)	△22.9	△84.0	△70.0	△72.7	—
(ご参考)前期実績 (26年9月期)	3,911	555	684	923	6.92

(注) 当社は、平成26年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益を算定しております。

2. 修正の理由

投資銀行事業においては、第3四半期にアレンジメント業務の対象である太陽光発電事業に係る優良なプロジェクトの確保を優先し、第4四半期において、これらを当期中に収益化させるために、売却活動やアレンジメント業務受託の取組みを展開しましたが、約590百万円の売上が次期に持ち越しとなる見込みとなりました。

不動産事業では、前連結会計年度にベターライフハウス(株)等の子会社化以後、戸建住宅販売を計画し当連結会計年度に販売を開始しました。子会社化後に仕入、販売ルートの開拓や業務体制の整備を並行して進めてきましたが、想定よりこれらの施策の進捗が遅れたことが

影響して、当初に計画した仕入、販売の最終回転分について売上計上に至らない見込みとなりました。これを主たる要因として、不動産事業の売上高は当初予想より約1,150百万円減少する見込みとなりました。

投資銀行事業、不動産事業とも業務拡大を続けておりますが、顧客からの引合い増加への対応や見込み案件を推進させる組織体制、人員補完が万全ではなかったことが計画値未達の要因の一つであります。

これらの結果、通期の売上高は当初予想値7,000百万円より1,600百万円減少し、5,400百万円となる見込みであります。

営業利益は、当初予想に比べ、1,050百万円減少し200百万円となる見込みであります。これは、上記の通り投資銀行事業、不動産事業の売上が当初予想に達しない見込みとなったことが主な要因であります。この他、ムーミンテemapark事業を含むメツァ関連事業の先行投資による費用（㈱ムーミン物語を子会社化したことによる同社損益の取込[連結消去後で約57百万円の営業損失の見込み]、及びメツァ開設のための各種調査費用等）や、投資銀行事業の事業拡大に伴い人員を増強したことによる人件費の増加を見込んでおりますが、これを収益性が高く好調な投資銀行事業で補完するに至らないものであります。経常利益は為替差益の計上等により360百万円となり、当期純利益は300百万円となる見込みであります。

次期に持ち越しとなると見込まれる案件についても、当期中に収益計上できるよう期末に向けて、当社グループが一体となり、努力いたします。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により、上記予想数値とは異なる可能性があります。

以 上